

i

私らしく、
僕らしく。

NO.18 TRAVAIL 4.25 2001 210YEN

とらば一ゆ

- できることより、好きなこと。「好き」から見つける仕事特集
- 1万円上がると、生活変わるよ。月給20万円以上のシゴト
- 「人のため」が、私のため。医療・看護・介護の仕事



字幕翻訳家、ワインコーディネーター...成功したあの人に直撃!

ココが違う! 好きを仕事にできる人

2カ月前から準備する 円満退社完全マニュアル
これぞ「とらば一ゆ」で見つけた運命の出会い
「海外ワークに合格しちゃった!」 追っかけレポート

今週の求人特集 「好き」から見つける仕事特集
オフィスワーク特集 医療・看護・介護の仕事特集
埼玉・都内北部沿線エリア特集 美容・理容/埼玉エリア特集

とらば一ゆ・Net <http://www.recruit.co.jp/HR/TR/>
求人情報掲載のお問い合わせ お申し込みは0120-40-1166

求人情報の内容が事実と反していた場合はトラブルホットラインへ0120-110-288

RECRUIT

好きを仕事に

できる人

ワイン
コーディネーター

友田晶子さん
(37歳)



友田さんが店長を務める銀座の「ワインバー・アルファ」にて。「ワインは難しい顔をして飲むものではありません。純粹に楽しめばいい。本来、お酒は、人と場を楽しくさせるものなのでから」。



好きを仕事にする
ポイント

- 1 自分の好き・嫌いに関係なく幅広い知識を身につける
- 2 一人の世界で楽しむのは趣味。人と交流してこそチャンスは広がる
- 3 時代の波をとらえて“今だ!”と思ったら即チャレンジ

プロへのステップアップ STEP UP

アシスタント講師から コーディネーターに

お酒の勉強がしたいと上京し、新設のワインスクールに入学。ワインへの熱意がかわれて、生徒からアシスタントの講師になる。いかにわかりやすくワインの魅力を伝えるか、を考えつつ試行錯誤の日々。

仕事にしたいと一念発起して、ワインの資格取得

もっと多くの人にワインの良さを知ってほしいとの思いから、フリーで働くことを考え出す。趣味ではなく仕事にしようと思いつき、89年にはワインの資格を取得。

友人のマネージメントを離れ、会社を起こす

モデル事務所を営む友人のマネージメントでセミナーやイベント、TV、雑誌など広範囲に活躍。90年、その友人と親戚の助けを借りて、自ら株式会社を起こす。

銀座にワインバーをオープンし店長となる

98年10月、銀座に「ワインバー・アルファ」を開店。ワインコーディネーターとして、イベントに参加したり、ワインに関する著書を執筆したり、ワインを中心に精力的に活躍中。

“ワインの時代が来るかもしれない” その直感が私を動かした

マスコミ専門学校を卒業後、友田さんが就職を決めたのは、レコード会社の新人タレント販促セクシオン。華やかな職場、仕事にもやりがいを感じていたが、福井にある実家の母が病に倒れ、帰郷。入社1年にして、レコード会社を退社する。

「その後、母が亡くなり、しばらくアルバイトしながら、実家と東京を往復していたんです。でも、もともと、田舎でくすぶるな、というのがうちの両親の考え方。それで再上京することに決めました」

「でも、何をしよう?」とふと考えたとき、漠然と浮かんできたのが、食べる、飲む、遊ぶ、ことだった。

「実は、実家がビザ・ハウスだったんです。そんな影響もあって、飲食を含めたテーブルまわりに、自然と興味に向いたんですね。でもそのときは本当に漠然として……」

86年、パリに本部を持つワインスクールが東京・渋谷に開校した。メーカー色がなく、ワインを体系的に学べるという新しい学校だった。

「雑誌で生徒募集を知って、すぐ応募しました。そのときはワインというより、お酒全体に興味があったんです。でも入学して、これからはワインだ!!」って、波が絶対来るって、なんか、勢いを感じたんですよ。そのときはカンでしかなかったけど、これは趣味で終わらせてはいけな

い。仕事にしようって」

1期生として入学した友田さんの周囲の生徒は、みな業界の人間ばかりだった。彼らの醸し出す空気が、友田さんの直感を後押しした。その後、同スクールのアシスタント講師となり、89年にはワインの資格を取得。モデル事務所を経営する友人の力添えもあり、女性ワインコーディネーターとしてマスコミにも登場、著書も執筆し、広く知られるようになった。

「ひとりで言えば、時代の波に乗ったんでしょう。それまでワインは高尚で難しいイメージがあったところへ、女性ということも幸いして、柔らかなアプローチができた。私は強い目標を持つってわけじゃないんです。ただ、生きていくことに怖がり、なのね笑。力抜くのが怖いから、つい真面目に頑張ってしまう。それを見ていてくれた人が、友田、なんかやってよって、声を掛けてくれたものが繋がった。ワイン業界はいまだ狭い世界です。ブームから定着の時期には来ているけれど、チャンスはまだまだあると思う。ただ、これから目指す人にアドバイスするところ、ワインは、嗜好品だということでは、自分の好き嫌い、知識だけでは、ピンネスにはならない。それを噛み砕いて、わかりやすく相手に伝える力を求められるんです」